

H.C.R.2025 

第52回国際福祉機器展 & フォーラム

Creative 2025

地域、高齢、障害、こども・家庭。ふくしを支える人たちの今。

高齢者福祉

ケアに、余白を ICTが紡ぐ介護の時間

生活支援員

呼びかけに「ちょっと待って」と
返すしかなかった日々。
自分でも嫌になったその言葉が、
ICTの導入をきっかけに少しずつ消えていった——。
記録に追われていた手は、いま何をつかみ、
どんな瞬間を生んでいるのか——。



見学で感じた「あたたかな時間」に心を動かされ、花原は高齢者施設で働き始めた。最初は記録や見守りに追われることが多く、先輩に励まされながら仕事には慣れていったものの、「もっと利用者さんと向き合いたいのに」という思いは消えなかった。

そんな花原に大きな変化をもたらしたのが ICT だった。音声入力でスマホのソフトを起動後、「〇〇さん主食 5 割、副食 5 割」と言えば記録は完了。センサーは起き上がりを知らせ、転倒リスクを素早く防げる。リフトは利用者にも職員にも負担の少ない移乗を可能にした。こうした機器が支えてくれることで、花原は安心して利用者のそばにいられる時間を増やせるようになった。「昨日もよく食べてたね」と声をかければ「うん、おいしかった」と笑顔が返ってくる。そのやりとりは一見小さなことに見えるが、信頼や安心を育てる大切な瞬間だ。

花原は実感している——ICT の価値は作業を減らすことではなく、人と人のつながりを深める時間を生み出すことにあるのだと。

花原 千紗 Chisa Hanabaru

進路に迷っていた高校時代、施設で見た職員と利用者のあたたかな時間に心を動かされ介護の道へ。現在は一人ひとりに寄り添うケアを実践する。

密着取材動画はこちら！



地域福祉
高齢者福祉

特別じゃない。
別格



介護職

介護は施設の中だけに収まらない。
花見や祭り、外出先での再会——。
地域とつながる瞬間に立ち会うたび、思う。
介護は“制限”ではなく“広がり”。
人の想いを叶え、まちを豊かにする
別格の仕事だ。

介護施設に入れば制限される。そう思っていたが、実際は違った。春は地域の桜並木へ出かけ、夏は近所の花火大会を家族と一緒に楽しむ。地域に開かれた介護の場は、人が人らしく暮らせる場所だった。危ないからと諦めるのではなく、「やってみたい」に寄り添い挑戦を重ねる。介護は日々、地域とともに広がっていく仕事だ。

忘れられないのは、100歳を超えた利用者の願いだった。遠方のお墓参りに出かけ、声だけで家族を聞き分けた笑顔の瞬間。帰宅から3日後、その方は旅立ったが、ご家族から「生きているうちに会えてよかった」と伝えられた。介護は命の時間に寄り添い、家族と地域を結び直す営みでもあることを実感。きつさもあるが、それを超える喜びがある。介護は、人とまちを支える別格の仕事だ。

山本 朱莉 Akari Yamamoto

特別養護老人ホームで働いて4年目。利用者と地域、家族をつなぐ支援を重ねながら、「介護は人の願いを叶え、まちを豊かにする仕事」だと実感している。

密着取材動画はこちら！



記録も、想いも
ちゃんと届く。



中村 こころ
Kokoro Nakamura

福祉科実習での出会いと父のひとことをきっかけに特別養護老人ホームに入職。最初から ICT が整った環境だった。「介護はきついって誰が言った」と笑える毎日。ワークもライフも充実した日々を過ごしている。

密着取材動画はこちら！



生活支援員

配膳ロボットやセンサーつきベッドに囲まれた職場。けれど、そこで生まれるのは機械的な介護ではない。中村が日々感じているのは、人と人との温かなやりとり。

その風景とは――。

配膳ロボットが走り、センサーつきベッドが動きを知らせ、リフトが移乗を支える。ICT が整った環境で働くことは、中村にとって最初から“日常”だった。だからこそ、彼女の目に映るのは機械ではなく、その先にいる人の表情や声だ。記録もインカムに話すだけで残せるから、支援の合間に「今日もよく眠れましたか」と自然に声をかけ、返ってくる何気ない言葉や笑顔を逃さず受けとめられる。

夜勤でもセンサーが状況を知らせてくれるから、慌てることはない。落ち着いて優先順位を考え、利用者のもとに向かう余裕がある。「ありがとう」と呼ばれる瞬間には、どれだけ疲れていても心が軽くなる。ICT は効率化のための道具ではなく、介護の中で人と向き合う時間と気持ちの余裕を生み出してくれる存在だ。中村にとって介護は“きつい仕事”ではなく、人と笑い合える温かい日常そのものになっている。

高齢者福祉
地域福祉

さあ、
次は何する？
まちづくりの主演は、福祉だ。

施設長

過疎化が進むまちに、社会福祉法人が仕掛けた
「あるプロジェクト」。古民家の交流拠点、
FM ラジオ、子ども食堂…。

人が集まり、声が届き、出会いが生まれる。

小さな試みの積み重ねが、まちを動かす原動力になる。



松本 昇
Noboru
Matsumoto

奈良県五條市の特別養護
老人ホーム施設長。少子高
齢化と過疎が進む地域で、
古民家を活用した「あるプロ
ジェクト」をはじめ、FM ラ
ジオやカフェ、子ども食堂
などを展開。福祉を軸にま
ちの活気を取り戻している。

密着取材動画はこちら！



五條市は、全国の地方都市と同じように、子どもが減り、高齢化が進み、地域のつながりが薄れていった。そんな現状に対して社会福祉法人が立ち上げたのが「あるプロジェクト」だ。古民家を活用した交流拠点をはじめ、FM ラジオで地域の声を発信し、子ども食堂やカフェで世代を超えた居場所をつくる。そこに集う人びとは子どもから高齢者まで幅広く、互いに学び合い、支え合う関係が生まれている。

大切なのは、まず自分たちが楽しむこと。「どうやってみんなで楽しむか」を考えるのが福祉だと松本さんは言う。利用者や子どもの力を引き出し、新しい一面に出会える瞬間が何よりの喜びだ。福祉は特別な専門領域に閉じるのではなく、まちの日常に広がる営み。その積み重ねが、人と人をつなぎ直し、地域を元気にしていく。福祉こそ、まちづくりの主演だ。

障害者福祉

「生きる」のそばで

生活支援員

返事のない声かけを、毎日繰り返す日々。
表情の少ない利用者にも、どう届くのか——。
小さな変化を信じて積み重ねた時間の先に、
思いがけない瞬間が訪れた。



朝の光が差し込む廊下を歩きながら「おはよう」と声をかける。返事はないけれども、視線や仕草に小さな変化を感じる。障害者福祉の仕事は、そんな静かな瞬間の積み重ねだ。働き始めた頃は不安や戸惑いもあったが、仲間がそばにいて、分からないことを丁寧に教えてくれ、休日には笑い合える。その関係が心の支えになっている。

忘れられないのは、言葉が少なく表情も硬かった利用者との日々だ。好きな歌やテレビ番組の話毎日繰り返し投げかけ、反応がなくても続けてきた。そして半年が過ぎたころ、一緒にDVDを観ていたときに、ふっと笑顔がこぼれた。その瞬間に「通じた」と思い、胸が熱くなった。

障害者福祉は答えがすぐに見える仕事ではない。けれど、積み重ねた時間の中で訪れる小さな変化が、この道を歩き続ける力になっている。

一里山 梨緒 Rio Ichiriyama

パン屋や学童で人と関わる仕事を経て障害者福祉の道へ。最初の不安や迷いを越えて、今は仲間と支え合いながら、利用者の小さな表情の変化に寄り添い歩んでいる。

密着取材動画はこちら！



言葉にならない 気持ちを見つける



生活支援員

全盲で統合失調症のある男性との出会いが、千葉の姿勢を変えた。不安でナースコールを繰り返し、怒ると白杖を投げる——彼に対して、千葉はどう向き合ったのか。

最初は、戸惑いと拒否感しかなかった。
ナースコールを何度も押し、怒ると白杖を投げる男性に、どう接すればよいのか答えが見つからなかった。
けれど、ふと思った——この人の見えている世界は、どんなだろう。
相手の立場に身を置くように想いを巡らせてみた。
そして、声のトーンや言葉の順番を意識し、相手が安心できるタイミングを探るよう工夫してみた。
するとその日、コールは一度も鳴らなかった。
相手の世界に触れようとすると、自分の心も変わっていくことに気づいた。
支援とは、正しさを押しつけることではない。
言葉にならない気持ちを、いちばん近くで見つけること。
その人の世界に寄り添うことで、自分もまた成長していくのだ。

千葉 一馬 Kazuma Chiba

障害者支援施設・入所支援係。マニュアルに縛られ葛藤していたが、ある利用者との出会いをきっかけに、「正しさ」を超えて相手の世界に寄り添う支援へと姿勢を変えていった。

密着取材動画はこちら！



保育

自分らしさを武器に、
子育てのプロをめざす

保育士

子どもの育ちを支えることはもちろん、
保護者の子育てを支えることも保育の仕事。
子どもの目線で一緒に楽しみ、
保護者の目線で一緒に見守る。
自分らしく、プロフェSSIONナルを目指す。



大学3年生の春、自分の“やりたいこと”と真剣に向き合った。

授業を通して、ひとり親家庭をはじめ、さまざまな家庭で育つ子どもたちの存在を知った。少しでも支えになりたい。子どもの居場所づくりがしたい。——そのとき「保育士」という選択肢が浮かんだ。

最初は、思い描く保育士像に近づけずもどかしかった。けれど、だんだんと自分らしさを活かせるようになってきた。わたしはスポーツやイベント、楽しいことが大好き。自分自身が楽しそうにしていると、子どもと一緒に盛り上がる。子どもと同じ目線で体験を楽しみ、共に学べるよう、寄り添っていきたい。

子どもの様子をじっくり見ていると、ささいな変化に気づくことも増えてきた。そうした変化を保護者に話すと、家庭での悩みごとを打ち明ける糸口に。目の前の子どもに向き合うと、その先には保護者や地域とのつながりが広がっている。

いまはまだ入口に立ったばかりだが、一人ひとりの背景や思いを受け止め、未来に向かう子どもの背中をそっと押せる存在へと成長していきたい。

植村 梨央
Rio Uemura

“先生”として教えるのではなく、一緒に学ぶ存在でいたい。

密着取材動画はこちら！



保育士としての 覚悟



施設長

「子どもが好き」だけでは続かない。
模索を重ねた先にたどり着いたのは
「説明できる保育」だった。
一つひとつの行動の意味を考え、言葉で伝える。
それがプロの保育士だ。

養成校時代、実習先の保育所の先生から保育士としてやっていく覚悟を問われた。思いを示すと、「じゃあ私も本気で教えるから、ちゃんとついてきなさい」と。そのやりとりが、保育士として歩み始める自分にとって、大きな支えになった。保育はただ「子どもが好き」では務まらない。保育士として 専門性と意図を持ち、保育士が、自分のとった関わりや行動を、きちんと理由をもって言語化できることが大切だと感じている。毎日の現場は子どもの姿から学ぶこと・気づくことの連続だ。焚き火や外遊びを通じて「これ燃えるかな」「もっと面白くなるよ」と子どもたちが自ら意見を出し合う。そこに寄り添いながら、子どもたちがどう考え、生きていく力を育ていけるかを支えるのが自分の役割だと思う。

問いを持ち続け、子どもから学び続ける。その先に見えてきたのは、保育士は人を支えるための土台を築く存在だということ。だからこそ、自分の行動を言葉で説明できなければならない。それが保育士としての覚悟。

佐藤 慶太 Keita Sato

男性保育士として経験を積み、現在は園長。現場とマネジメントの両面から保育に向き合い、子どもの成長と保育士の働き方を支えている。

密着取材動画はこちら！



Creative

2025

クリエイティブな未来を拓く
人生を彩る仕事

高齢者に かかわるしごと

人生100年を、 明るく彩るクリエイター

主な施設
特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、
デイサービスセンターなど

介護職員、ホームヘルパー

日常に笑顔を生み出す仕事

生活相談員・支援相談員

人生の物語を聴き未来を支える仕事

ケアマネジャー

暮らしをデザインするプランナー

福祉用具専門相談員

可能性を広げる道具を提案する仕事

子ども・家庭に かかわるしごと

未来を育て、 夢をひらく

主な施設
保育所、認定こども園、児童相談所、
児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設など

保育士・保育教諭

子どもの未来を育むクリエイター

児童指導員

子どもの日々をデザインする支援者

養護教諭

学校で健康と安心を守るサポーター

スクール ソーシャルワーカー

学びの環境を彩る相談員

福祉の仕事って？

福祉の仕事は、子ども、高齢者、障害者、
心のケアなど、人生のあらゆる場面に関わります。
誰かの「生きる」を支え、笑顔を増やし、
社会に新しい可能性をひらくクリエイティブな
仕事です。

人生を彩り、未来を デザインするしごと

3つの福祉士

ひとに寄り添い 未来を拓く専門職

社会福祉士

生活の困りごとを聞き、制度や支援へつなぐプランナー

主なフィールド
社会福祉協議会、市役所、病院など

介護福祉士

暮らしを支え、人生を豊かに彩るケアのクリエイター。

主なフィールド
特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、訪問介護など

精神保健福祉士

心の回復と社会参加を導く未来のストーリーデザイナー。

主なフィールド
精神科病院、保健所、就労支援事業所など

障害者に かかわるしごと

その人らしい未来を、 共につくる

主な施設
障害者支援施設、就労継続支援事業所、
生活介護事業所など

義肢装具士

義肢装具を製作し適合させるプロ

ガイドヘルパー

障害者の外出や移動の助助を行う

義肢装具士生活支援員

暮らしの中で可能性を広げる仕事

手話通訳士

ことばを超えて未来をつなぐ仕事

盲導犬訓練士

人と犬を結び新しい道を開く仕事

保健・医療・心理/ リハビリにかかわるしごと

心と体に 新しい未来をつくる

主な施設
病院、保健所、リハビリテーション病院など

看護師

ケアで命を支える未来のパートナー

公認心理師

心に寄り添い安心を生み出す支援者

理学療法士、作業療法士

体の動きを取り戻す未来のトレーナー

言語聴覚士

話す、聞く、食べるのスペシャリスト



H.C.R.2025



第 52 回国際福祉機器展 & フォーラム

CREATIVE2025

[発行]

一般財団法人 保健福祉広報協会

<https://hcr.japan.org/>

2025年10月8日

[取材協力]

社会福祉法人スマイリング・パーク

社会福祉法人めぐみ会

社会福祉法人祥水園

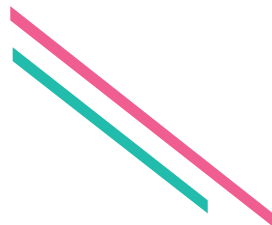
社会福祉法人どろんこ会

[制作]

株式会社インターコミュニティ

非 売 品

人が人にかかわり
支え合う
ふくしの魅力！



無断転載・複製・WEB 掲載は禁止です。

